

柳井駅周辺地区まちづくり構想

～コンパクトなまちづくりモデル事業～



平成26年11月

山口県
柳井市

目次

はじめに

1. コンパクトなまちづくりへの取組 1
2. モデル地区の位置 3

第Ⅰ部 現状分析と将来予測

1. 柳井市の現況 4
2. 将来人口の予測 6
3. 現状と課題 9

第Ⅱ部 まちづくり構想

1. 基本理念・基本方針の設定 11
2. 導入機能の検討 15
3. モデル地区の目標人口の設定 17

参考

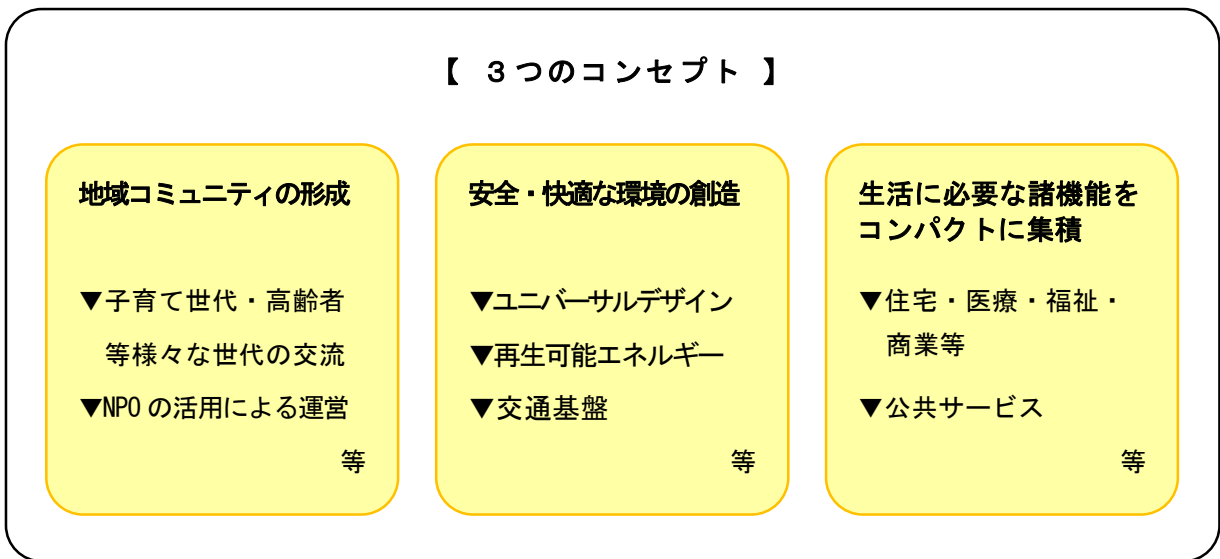
- 資料 施策体系の整理 18

はじめに

1. コンパクトなまちづくりへの取組

(1) 山口県による「コンパクトなまちづくりモデル事業」の創設

山口県では、少子高齢化の進行に対応し、子育て世代や高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めるため、駅などの交通拠点周辺の遊休地等を「モデル地区」に定め、3つのコンセプトにより、将来の県民の暮らしのモデルとなる先進的なコミュニティの形成を目指し、積極的に取り組む市町を県が支援する「コンパクトなまちづくりモデル事業」を創設し、平成25年5月に募集を行った。



(2) 柳井市による「コンパクトなまちづくりモデル事業」への応募

柳井市は、柳井市南浜に立地する新明和工業株式会社所有の工場跡地10.2haについて、製造業等の誘致活動を続けてきたが、産業構造の転換等様々な状況の変化から、土地利用方針の見直しを行い、柳井駅周辺の中心市街に立地する都市機能との連携を図りつつ、今後予測される少子高齢化、人口減少等に対応するため、子育て世代から高齢者までのすべての世代が相互に交流でき、安全に安心して歩いて暮らせるまちづくりに取り組むこととし、このエリアをモデル地区として、応募した。

(3) モデル地区の決定

山口県は、柳井市の応募がコンパクトなまちづくりモデル事業の趣旨を踏まえた内容であることから、平成25年7月に「柳井駅周辺」地区を「集約拠点タイプ(※)」のモデル地区として決定した。

※集約拠点タイプ

工場跡地などの一定の規模以上の遊休地において、まちづくりの計画案や事業手法の検討を行い、それに基づき都市基盤整備を行うとともに、必要な施設の整備・誘導を行うもの。

(4) 「まちづくり構想」の策定

モデル地区においてまちづくりを進めていくためには、モデル地区の目指すべき姿を描いた上で、それを着実に実行する必要がある。

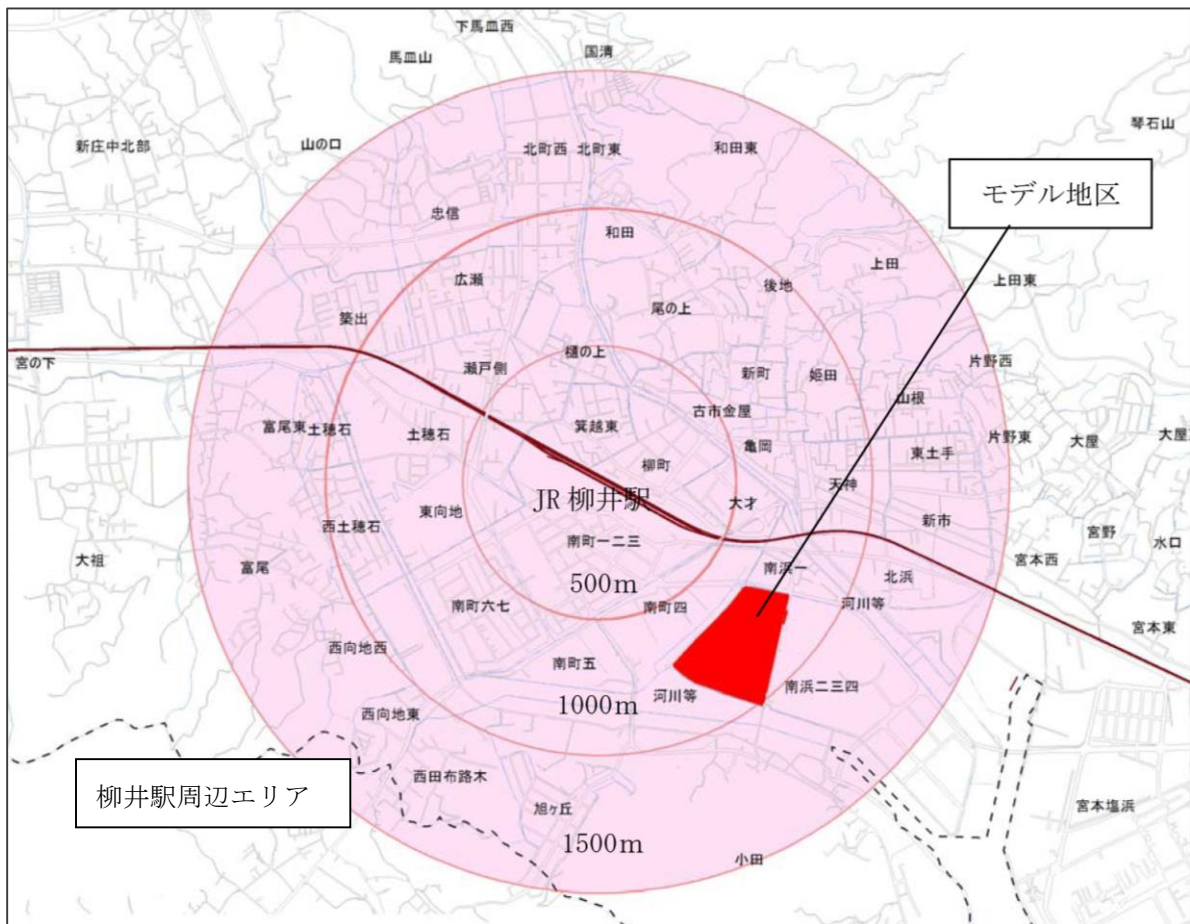
このため、柳井市の現状を踏まえた上で、まちづくりの主役である柳井市の主体性を尊重しつつ、県と市が協働して、モデル地区の目指すべき将来像やその形成に必要な施策を「まちづくり構想」として取りまとめることとした。



柳井市南浜

2. モデル地区の位置

モデル地区は、JR柳井駅の南東800mに位置する10.2haの工場跡地である。このモデル地区に隣接する柳井駅周辺を中心市街地には、一定の都市機能が集積されていることから、生活に必要な施設全てをモデル地区に配置するような独立したまちづくりを行うのではなく、柳井駅周辺を中心市街地とモデル地区が連携したまちづくりが必要である。



モデル地区と柳井駅周辺エリア

なお、まちづくり構想を策定するに当たり、「柳井駅周辺エリア」として、平成21年7月に調査された「歩いて暮らせるまちづくりに関する世論調査」(内閣府大臣官房政府広報室)を参考にして、柳井駅を中心に半径1,500m以内の範囲を設定した。この柳井駅周辺エリアの面積は、690.95haとなる。

第 I 部 現状分析と将来予測

1. 柳井市の現況

(1) 柳井市の位置

柳井市は、山口県南東部の瀬戸内海沿いに位置しており、市中心部から約30kmの距離に岩国市、周南市の中心部があり、約60kmの距離に広島市、山口市、松山市の各県庁所在地がある。

新幹線や高速道路等の高速交通網は市域にはなく、岩国錦帯橋空港は約30km離れた位置にあり、広島空港や山口宇部空港からは100km以上離れている。

(2) 地勢

柳井市の北と東は岩国市に接し、西は光市、田布施町、平生町、上関町に接している。大島瀬戸を挟んで対岸には周防大島町がある。

市域は、東西20.0km、南北31.8km、面積139.90km²で、県内13市では面積が4番目に小さい市である。

柳井市の歴史は古く、縄文時代から人々の営みがあり、日本最大級の大鏡が出土した茶臼山古墳など多くの遺跡や史跡が残されている。

明治期から戦後を通じて商業・卸売業や農漁業などの産業を中心に発展を続け、昭和30年代に金属・機械器具製造業などの都市型工業が定着し、豊かな自然と恵まれた気候・風土のもとで、産業と都市機能の充実を図りながら発展を遂げてきた。

(3) 気象条件

柳井市は、瀬戸内海沿岸部に位置していることから、冬は暖かく、夏は比較的涼しいのが特徴で、県内では最も雨の少ない地域であり、積雪はまれである。

年間平均気温は、沿岸部で15℃から16℃、標高500mの山々の北部に位置する山間部では14℃から15℃とやや低くなっている。

また、年間降雨量は、1,600mmから1,700mm程度で、年間の日照時間は約2,090時間となっており、国内でも有数の長さである。

(4) 自然環境

柳井市の半島・島しょ部は、比較的急峻な丘陵地が入り組んで海岸線に迫る変化に富んだ地形をなしており、瀬戸内海国立公園にも指定された自然景観を有している。

土地利用は、山林が約56%と最も多く、次いで農用地約24%、宅地約7%の順となっている。

(5) 歴史・文化・景観

国指定の史跡茶臼山古墳や国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている古市・金屋地区、明治維新に影響力のあった僧月性など、多くの歴史・文化遺産に恵まれている。

また、瀬戸内海や琴石山、氷室岳などの山並み、柳井川などの河川、田園風景や、歴史的な町並みなど、美しい景観が市内全域に分布しており、それらの景観は、地域の歴史、地形や自然に培われた風土、文化や伝統、人々の身近な暮らしや経済活動の積み重ねが表れたものである。



茶臼山古墳



白壁の町並みと金魚ちょうちん

(6) 人口構造

柳井市の人口は、昭和22年の51,143人をピークにほぼ一貫して減少し、平成22年は34,730人と、ピーク時に比べ32.1%減少している。

一方、65歳以上の人口は年々増加しており、昭和60年に6,909人であったものが平成22年には11,247人となり、総人口に占める65歳以上人口の割合は、昭和60年の16.5%が平成22年には32.5%と約2倍となるなど高齢化が進んでいる。

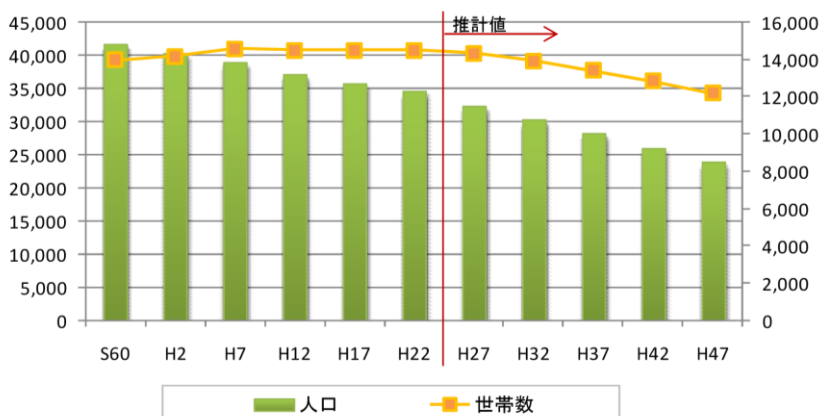
また、本市の世帯数は、平成7年の14,592世帯をピークに緩やかに減少し、平成22年には14,527世帯となっているが、高齢単身世帯数及び高齢夫婦世帯数は、昭和60年に1,631世帯であったものが、平成22年には4,251世帯と急激に増加している。

2. 将来人口の予測

(1) 柳井市の将来人口

柳井市の人口は今後も減少が続くと見込まれ、このまま推移すると、平成47年の人口は23,992人と24,000人を下回ると予測される。また、人口減少に合わせ世帯数も減少し、平成47年の世帯数は12,202世帯となると予測される。その結果、世帯人員は平成22年の2.39人/世帯から平成47年では1.97人/世帯となる。

実数値						
	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口	41,798	40,478	38,963	37,251	35,927	34,730
世帯数	13,990	14,162	14,592	14,545	14,504	14,527
世帯人員	2.99	2.86	2.67	2.56	2.48	2.39
推計値						
	H27	H32	H37	H42	H47	
人口	32,477	30,404	28,272	26,128	23,992	
世帯数	14,319	13,928	13,434	12,855	12,202	
世帯人員	2.27	2.18	2.10	2.03	1.97	



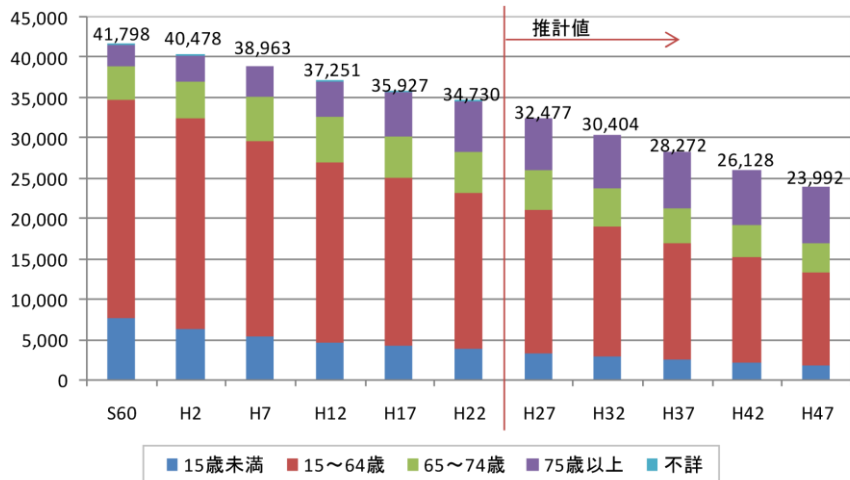
出典：柳井市都市計画マスタープラン（H27以降）
：国勢調査（S60～H22 データ）

柳井市の人口動向（実数及び推計）

(2) 柳井市の年齢別人口の予測

柳井市では、今後も高齢化の進行が見込まれ、平成47年には平成22年と比較して、15歳未満の人口は半分以下に、15歳～64歳の人口は約60%となり、これらの世代は大幅に減少することが予測される。しかし、65歳以上の人口は約93%と減少幅が小さく、特に75歳以上の後期高齢者の人口は、13%程度増加することが予測される。

実数値						
	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口	41,798	40,478	38,963	37,251	35,927	34,730
15歳未満	7,688	6,410	5,493	4,758	4,328	4,031
15～64歳	27,196	26,085	24,210	22,357	20,826	19,290
65～74歳	3,981	4,652	5,388	5,543	5,172	5,124
75歳以上	2,928	3,308	3,872	4,549	5,597	6,123
不詳	5	23	0	44	4	162
推計値						
	H27	H32	H37	H42	H47	
人口	32,477	30,404	28,272	26,128	23,992	
15歳未満	3,432	2,995	2,596	2,236	1,911	
15～64歳	17,654	16,054	14,501	13,011	11,589	
65～74歳	5,047	4,728	4,359	3,966	3,563	
75歳以上	6,344	6,627	6,816	6,915	6,929	
不詳	0	0	0	0	0	



出典：国勢調査（平成22年以前データ）

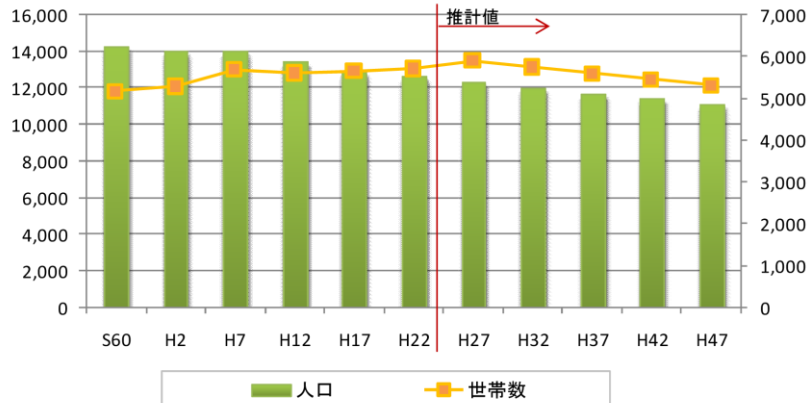
柳井市の年齢別人口の予測

（3）柳井駅周辺エリアにおける将来人口予測

平成47年の柳井駅周辺エリアの人口は11,120人と、平成22年比88%となり、市全体の69%と比べ緩やかな減少傾向を示している。

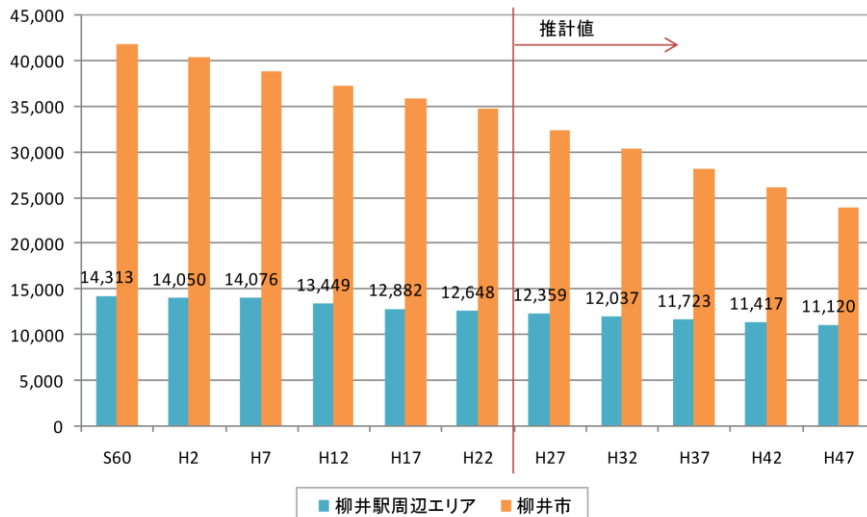
また、平成47年の柳井駅周辺エリアの世帯数は5,321世帯と、平成22年比93%となり、人口に比べても緩やかに減少することが予測される。

実数値						
	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口	14,313	14,050	14,076	13,449	12,882	12,648
世帯数	5,186	5,299	5,703	5,623	5,666	5,729
世帯人員	2.76	2.65	2.47	2.39	2.27	2.21
推計値						
	H27	H32	H37	H42	H47	
人口	12,359	12,037	11,723	11,417	11,120	
世帯数	5,913	5,759	5,609	5,463	5,321	
世帯人員	2.09	2.09	2.09	2.09	2.09	



柳井市の人口動向 (実数及び推計)

	実数値						H22増減比
	S60	H2	H7	H12	H17	H22	
柳井駅周辺エリア	14,313	14,050	14,076	13,449	12,882	12,648	
柳井市	41,798	40,478	38,963	37,251	35,927	34,730	
割合	0.34	0.35	0.36	0.36	0.36	0.36	
	推計値					H22増減比	
	H27	H32	H37	H42	H47		
柳井駅周辺エリア	12,359	12,037	11,723	11,417	11,120	0.88	
柳井市	32,477	30,404	28,272	26,128	23,992	0.69	
割合	0.38	0.40	0.41	0.44	0.46	-	



出典：基礎調査（平成22年以前データ）

柳井市全体と柳井駅周辺エリアとの人口動向比較 (実数及び推計)

3. 現状と課題

(1) 柳井駅周辺エリアの施設立地状況

柳井市の中心市街地を含む柳井駅周辺エリアには、各種施設が立地しており、その状況は以下のとおりである。しかし、モデル地区の周辺には、幼稚園や保育園等、子どもを安心して育てる環境が十分に整っていない状況である。また、郵便局や銀行など世代に関わらず利用される生活利便施設もモデル地区周辺には立地していない。

このような状況を踏まえ、「歩いて暮らせるまち」、「全ての世代に優しいまち」の取組を進めるためには、柳井駅周辺エリアに立地している施設との連携強化を図るとともに、モデル地区の利便性を高める施設配置の検討が必要である。

柳井駅を 中心とした圏内	医療・介護施設			教育施設等				
	医院・病院 (うち有床 【うち休日夜間】)	歯科医院	介護施設	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
500m圏内	11 (2)	4						1
500～1,000m圏内	13 (3) 【1】	5	2	2	1	1	1	1
1,000～1,500m圏	5 (1)	1		1	1	1		1
合計	29 (6)	10	2	3	2	2	1	3
柳井駅を 中心とした圏内	商業施設					生活利便施設		
	コンビニエンス ストア	スーパー等	ドラッグ ストア	ディスカウ ントストア	ホーム センター等	家電量販店	銀行等	郵便局
500m圏内	4	2	1	1			8	1
500～1,000m圏内	3	2	2	1	3	1	2	1
1,000～1,500m圏	3	3	1		1		2	2
合計	10	7	4	2	4	1	12	4

柳井駅周辺エリアの施設立地状況

(2) 公共交通機関

モデル地区の周辺には、山陽本線や路線バスが運行しており、公共交通機関の状況として利便性は高い地区となっている。しかし、モデル地区に隣接している国道188号には路線バスは運行しておらず、現在最も近いバス停でも500m程度離れており、また、柳井駅は約800m離れた位置にある。

高齢者や子育て世代など幅広い年齢の人がこの地区で安全に安心して暮らせるためには、自動車や自転車等で移動が困難な高齢者でも円滑に移動が可能となるように地区内外における新たな移動手段の検討が必要である。

(3) 人口・世帯・年齢構成の状況

人口及び世帯数が今後も減少傾向にある中、老年人口（65歳以上）はほぼ横ばいで、75歳以上の高齢者に至っては増加傾向にある。

今後の高齢者の増加に対応するため、高齢者等が安全で快適に移動できるようバリアフリーのまちづくりを推進する必要がある。また、少子化が進行する中で、子育てがしやすい環境づくりを行い、子育て世代が安心して暮らせるまちづくりを推進する必要がある。

さらに、今後単身世帯の増加、特に高齢者の単身世帯の増加が予想されることから、これらに対応した住宅の誘致や、子どもから高齢者まで全ての世代の交流を図るためのコミュニティ形成の場の提供やソフト施策の展開が必要である。

(4) その他の状況

柳井市総合計画及び柳井市都市計画マスタープランにおいては、人口減少や超高齢社会、都市機能の拡散・生活圏の広域化への対応のほか、環境や景観に配慮したまちづくりに関する課題を挙げている。

また、モデル地区の周囲は工業系用途に囲まれていることから、特に環境や景観に配慮し、自然をいかしたまちづくりを進める必要がある。併せて、隣接する河川による水害や台風による高潮災害、さらに地震による津波や液状化等に対応した、災害に強いまちづくりも求められる。

第Ⅱ部 まちづくり構想

1. 基本理念・基本方針の設定

(1) モデル地区の基本理念

コンパクトなまちづくりモデル事業では、再生可能エネルギーを活用し、「安全に安心して暮らせるまちづくり」を行うとともに、子育て世代が安心して暮らせるための施設の整備や、高齢者が近隣の医療施設等へ容易に移動できるための道路整備、公共交通機関の検討など、「全ての世代に優しいまちづくり」を行い、「三世代交流」の地域コミュニティによる「歩いて暮らすことができ、災害に強いコンパクトなまち」の形成を図ることを目的としている。

柳井市総合計画においては、「人が輝く・夢が生まれる 瀬戸内のふれあい元気都市～自主自立・参加と連携による まちづかい～」を目指すべき将来都市像とし、住み続けたいと思える「柳井らしさ」の創出のため、地域に誇りを持つとともに、自然や歴史、人材、景観などの「まちのたからもの」を守り、いかす必要があるとしている。

これを受けて柳井市都市計画マスタープランにおいては、「安心・安全」「交流・活力」「環境・景観」をキーワードに「今ある柳井らしさを大切に守り、価値や魅力をみんなで育てていくまち」を将来都市像としている。

また、平成17年に実施した市民意識調査では、「10年後の柳井市の望ましい将来像」を整理しており、各世代に配慮した都市構造の構築や人と人との交流し、社会参加できる生活環境づくりなどを必要な課題として挙げている。

これら、各種計画や市民意識調査結果、モデル地区の状況を踏まえ、モデル地区における基本理念を次のように設定する。



【柳井市総合計画】

人が輝く・夢が生まれる 瀬戸内のふれあい元気都市
～ 自主自立・参加と連携による まちづくり～

【柳井市都市計画マスタープラン】

今ある柳井らしさを大切に守り、価値や魅力をみんなで育てていくまち

【平成17年 市民意識調査 「10年後の柳井市の望ましい将来像」】

- 第1位：保健、医療、福祉の充実したまち
- 第2位：自然の豊かな美しい景観のまち
- 第3位：生活環境（上下水道、ごみ処理、住宅、公園など）の整ったまち
- 第4位：災害に強いまち
- 第5位：魅力のある就業のあるまち

【モデル地区における課題】

- ① 安心して子育てができるまちづくり
- ② 高齢者が安心して生活できるまちづくり
- ③ 全ての世代が交流できるまちづくり
- ④ 車がなくても生活できるまちづくり
- ⑤ 景観や環境に配慮したまちづくり
- ⑥ 災害に強いまちづくり

基本理念

住み続けたいと思える「柳井らしい」まち

～ 今あるまちとつながり みんなの笑顔があふれる 歩いて暮らせるまち～

(2) 基本方針の設定

基本理念の実現に向け、モデル地区の課題に対応したまちづくりの基本方針を設定する。

基本方針1 子育て世代や高齢者など様々な人が豊かに暮らせるまちづくり

安心して子育てができる環境を整えるとともに、高齢者や障害者など様々な人が安全に安心して暮らせるまちづくりを推進する。

事業等の例

- 子育て世代から高齢者までが安心して暮らせる住環境の検討
- ユニバーサルデザインに配慮した住宅の検討
- 子育て世代向け住宅の検討
- 多世帯向け住宅の検討
- 子育て支援施設の検討
- サービス付き高齢者向け住宅等の検討
- 行政と民間とが連携した子育て支援や高齢者支援の検討

基本方針2 人と人がつながるまちづくり

世代間交流が図られ、住み心地のよい新たなコミュニティが生まれる温かみのあるまちづくりを推進する。

事業等の例

- 多世代が交流できる多目的施設等の検討
- 高齢者が集い、子どもが安心して遊べる公園・緑地等の検討
- 子育て世代から高齢者までが進んで参加できる市民活動団体の形成支援の検討



基本方針3 健康に歩いて暮らせるまちづくり

生活利便施設などの必要な施設のある地域づくりを行うとともに、車を使わずに柳井駅周辺エリアへ足を運ぶことができる交通の便がよいまちづくりを推進する。

事業等の例

- 医療・福祉、生活利便施設の検討
- ユニバーサルデザインに配慮した道路の検討
- 地区外との連携を強化するための道路の検討
- 高齢者等が地区外の医療施設等へ容易に移動するための公共交通機関の検討

基本方針4 自然をいかした「柳井らしい」まちづくり

周辺工業地帯の環境負荷を感じさせない自然あふれるまちづくり、柳井らしい景観に配慮したまちづくりを行うとともに、再生可能エネルギーを活用した地球に優しいまちづくりを推進する。

事業等の例

- 地区の緑化推進の検討
- 再生可能エネルギーを活用した住宅等の建設促進の検討
- 柳井らしさを実感できる景観形成の促進の検討
- 地区住民による環境ボランティア等の育成支援の検討

基本方針5 安心して暮らせるまちづくり

暮らしの安心安全の確保を図るため、夜も明るく、災害時にも安全が確保できる環境づくりやコミュニティによる自主防災組織の設立を推進する。

事業等の例

- 災害支援物資等の備蓄機能を有する公園・緑地の検討
- 防災に関する住民意識の向上及び減災における地域協力体制構築の検討
- 太陽光発電を利用したLED照明灯・防犯灯やマンホールトイレ等の検討

2. 導入機能の検討

柳井駅周辺エリアの施設立地状況等を踏まえ、モデル地区に配置する施設の検討やゾーニングの検討を行う。

(1) 配置検討施設の概要

① 子育て世代や高齢者が住みやすい住宅【基本方針1・4】

子育て世代や高齢者が安心して暮らせるように、子育て世代向け住宅やサービス付き高齢者向け住宅、多世帯向け住宅をはじめとし、様々な人が快適に住むことができるようなユニバーサルデザインに配慮した住宅の配置を検討する。また、住宅建設にあたっては、太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用促進も検討する。

② 安心して集える公園・緑地【基本方針2・4・5】

地域住民に見守られながら安心して暮らせるように、高齢者が体を動かし、子どもが遊べる公園・緑地の配置を検討する。なお、公園には、太陽光発電を利用したLED照明灯・防犯灯、マンホールトイレの設置や備蓄倉庫等の併設などの防犯・防災的な要素を加えることも検討する。

③ 交流機能を有する公共施設【基本方針1・2・3・4】

多世代が交流できるように多目的施設や会議室、図書室などの高齢者や子育て世代が交流できる公共施設の配置を検討する。また、公共施設での再生可能エネルギーの活用や、子育ての悩みが相談できる窓口の設置なども検討する。

④ 誰もが安心して利用できる道路【基本方針3・5】

高齢者や子どもをはじめ、誰もが安心して歩けるように、ユニバーサルデザインに配慮した歩行者専用道の配置を検討する。なお、防犯上の観点から、太陽光発電を利用したLED照明灯・防犯灯の配置も検討する。

⑤ 柳井らしさが実感できる空間【基本方針4】

住む人が柳井らしさを実感できるように、柳井市景観計画の景観形成方針や整備方針を踏まえた景観形成促進を検討する。また、地区内の河川沿いにあるさくら土手を活用して自然景観をいかしたまちづくりの促進を検討する。

(2) 地区整備におけるゾーニング

モデル地区の整備におけるゾーン名称等は以下のとおりである。

ゾーン名称及び色分け

ゾーン名称	公共施設ゾーン	医療・福祉・健康・商業ゾーン	公園緑地ゾーン	住居ゾーン
-------	---------	----------------	---------	-------

【例】モデル地区内のゾーン及び配置検討施設等



※上図は一例であり、今後の基本計画策定においてゾーニングが定まることとなります。

3. モデル地区の目標人口の設定

子育て世代や高齢者をはじめ全ての世代が安全に安心して暮らすための地域コミュニティの形成や、柳井駅周辺エリアに立地する施設との連携を図りつつ、経済活動が維持され持続可能な都市経営がなされるためには、モデル地区において一定の人口密度を保ち、計画的な市街地整備を進める必要がある。

このため、基本理念の実現に向けてモデル地区でまちづくりを進めるに当たり、国土交通省が制定した「都市計画運用指針」を参考としてモデル地区の人口密度を60人/haとし、モデル地区の面積（約10.2ha）を考慮してモデル地区の将来人口を600人以上とした。

モデル地区将来人口 600人以上

【参考】都市計画運用指針（抜粋）

住宅用地の人口密度については、土地の高度利用を図るべき区域にあつては、1ha当たり100人以上、その他の区域にあつては1ha当たり80人以上を目標とし、土地利用密度の低い地域であっても1ha当たり60人以上とすることを基本とすることが望ましい。

資料 施策体系の整理

「基本方針で示した事業等の例」、「導入機能で検討した配置検討施設」、「コンパクトなまちづくりモデル事業の3つのコンセプト」の関連を整理した。

【3つのコンセプト】

(1) 地域コミュニティの形成

(2) 安全・快適な環境の創造

(3) 生活に必要な諸機能をコンパクトに集積

基本方針	事業等の例	配置 検討施設	3つのコンセプト		
			(1)	(2)	(3)
基本方針1 子育て世代や 高齢者など様々 な人が豊かに 暮らせる まちづくり	子育て世代から高齢者までが安心して暮らせる住環境の検討	①		○	◎
	ユニバーサルデザインに配慮した住宅の検討	①		○	◎
	子育て世代向け住宅の検討	①		○	◎
	多世帯向け住宅の検討	①		○	◎
	子育て支援施設の検討	③	◎	○	
	サービス付き高齢者向け住宅等の検討	①		○	◎
	行政と民間とが連携した子育て支援や高齢者支援の検討	①③	◎		
基本方針2 人と人が つながる まちづくり	多世代が交流できる多目的施設等の検討	③	◎	○	○
	高齢者が集い、子どもが安心して遊べる公園・緑地等の検討	②	○	◎	
	子育て世代から高齢者までが進んで参加できる市民活動団体の形成支援の検討	②③	◎	○	
基本方針3 健康に歩いて 暮らせる まちづくり	医療・福祉、生活利便施設の検討	③		○	◎
	ユニバーサルデザインに配慮した道路の検討	④		◎	
	地区外との連携を強化するための道路の検討	④		◎	
	高齢者等が地区外の医療施設等へ容易に移動するための公共交通機関の検討	④		◎	
基本方針4 自然をいかした 「柳井らしい」 まちづくり	地区の緑化推進の検討	②		◎	
	再生可能エネルギーを活用した住宅等の建設促進の検討	①③		◎	
	柳井らしさを実感できる景観形成の促進の検討	⑤		◎	
	地区住民による環境ボランティア等の育成支援の検討	⑤	◎		
基本方針5 安心して暮らせる まちづくり	災害支援物資等の備蓄機能を有する公園・緑地の検討	②		◎	
	防災に関する住民意識の向上及び減災における地域協力体制構築の検討	②	◎	○	
	太陽光発電を利用したLED照明灯・防犯灯やマンホールトイレ等の検討	②④		◎	

柳井駅周辺地区まちづくり構想

～コンパクトなまちづくりモデル事業～

平成26年11月

山口県・柳井市
